



ストップ！地球温暖化

この夏 電力不足が心配!! みんなで取り組もう 節電対策

夏は最も電力を消費します

現在、日本で作られている電力の約31%は、私たちの家庭で使われています。近年の電力消費量は、5月からだんだん多くなり、7月から9月に1年のピークを迎えます。また、夏の午後2時ごろは、1日の中で最も電力消費量が多くなる時間帯で、気温の上昇とともに増加しはじめます。私たちの家庭にある電化製品で、特に電力消費量が多いのは、エアコン、冷蔵庫、照明、テレビの4つです（グラフ1）。夏の午後2時ごろの在宅家庭を例にすると、全国平均で約1200Wの電力を

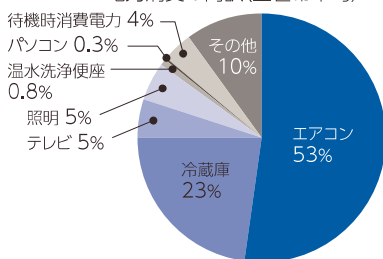
節電は、私たちが取り組める地球温暖化対策の一つです。3月11日に発生した東日本大震災によって、甚大な被害を受けた東北・関東地方では、電力供給力の確保に深刻な状況が続いています。また、5月には、中部電力浜岡原子力発電所が運転を停止したことから、私たちの住む中部地方でも、夏場の電力不足が懸念されています。このような事態は、私たちが経験したことのない「電力の危機」で

消費し、そのうちエアコンが約半分を占めています（グラフ2）。つまり、これらの電化製品を上手に使うことが、この夏の節電の「カギ」になるのです。また、電気はためておくことができませんから、限られた量をバランス良く使う必要があります。平日の午前9時から午後8時は、電力消費量が多い時間帯です。消費量が供給量を上回らないようにするためには、この時間帯の電力の使い方も重要になってきます。

あり、国民全体が一体となって乗り越えていなくてはなりません。今回の特集は、本格的な夏を迎えるに当たって、家庭で取り組むことができる節電対策を中心に紹介します。この取り組みが「過性」のものではなく、私たちの生活の中で常に意識されるようになれば、地球温暖化対策に一人寄与することになります。

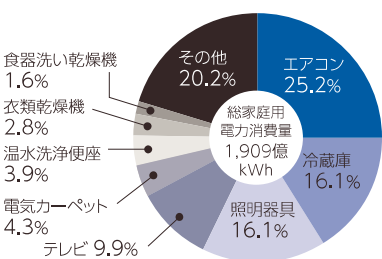
問い合わせ 環境課（内線253）

グラフ2 夏の日中(午後2時ごろ)の電力消費の内訳(全世帯平均)



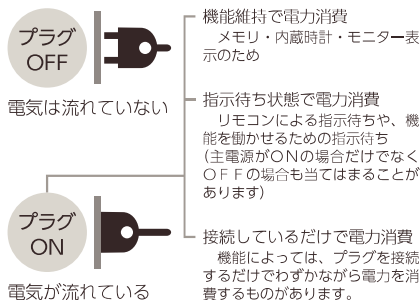
出典：資源エネルギー推計 ※数値は最大需要発生日を想定

グラフ1 電化製品別の電力消費量の比較



出典：資源エネルギー庁 平成16年度電力需給の概要

さまざまな待機時消費電力の例



「待機時消費電力」を知っていますか？
電化製品が使われずにプラグが接続されている状態を「待機時」といいます。多くの電化製品には、その製品を使いやすくするための表示機能やタイマー機能などがありますが、これらの機能を維持するために消費する電力を「待機時消費電力」といいます。家庭で消費する電力のうち、年間約6%がこの「待機時消費電力」です。電化製品を使っている意識がないまま電力が消費されているため、「待機時消費電力」は節電の見逃せない「大敵」です。

節電のポイント

この夏、次の3つのポイントを心掛け、節電に取り組みましょう。

ポイント1「減らす」

電化製品を省エネモードに変更

テレビや冷蔵庫、パソコンといった電化製品には、省エネモードが搭載されている機種があります。これらの機能を上手に使いましょう。

使っていない電化製品は、コンセントからプラグを抜く

使用していないのにプラグが接続されたままの電化製品はありませんか？

待機時消費電力を抑えるため、使わないときはプラグを抜くか、スイッチが付いている節電タップを利用しましょう。

ポイント2「[q]じゆん」

電力使用が多い時間帯を避ける

使用時間をずらせる電化製品は朝9時まで、または夜8時以降に使いましょう。

電化製品の同時使用を避ける

一度に多くの電化製品を使用せず、順番に使うように心がけましょう。

例えば、電子レンジとドライヤーを同時に使っていると、たくさんの電力を消費することになります。



ポイント3「切り替える」

ほかの方法に切り替えましょう

電化製品を購入するとき、星の付いたラベルを見たことがありますか？

これは、その製品の省エネ性能を5つ星から1つ星の5段階で表示したもので、星の

数が多いほど省エネ性能が高い製品です。

このような表示を参考に、省エネ型製品への買い替えを検討しましょう。

また、照明器具を発光ダイオード（LED）照明に切り替えたり、太陽光発電など自然エネルギーを利用する機器の設置を検討しましょう。



▲統一省エネラベル

15% 削減を

目指しましょう

この夏の電力不足を乗り切るため、国は各家庭に15%の電力消費量の削減を呼び掛けています。特に、月曜日から水曜日の日中（午後1時～4時）は、電力需給が厳しくなることが予想されます。

小さな節電の積み重ねも、大勢で取り組めば、大きな効果が期待できます。皆さん、ぜひ、節電に取り組ましましょう。

一家だんらのススメ

仕事や学校から帰宅した後、皆さんのご家族はどのようにお過ごしですか？それぞれの部屋で過ごしていませんか？

食事やだんらのときなどは、家族が一つの部屋に集まりましょう。節電はもちろん、家族のきずなも深まることでしょう。

生活スタイルを見直して節電

早寝早起きのススメ

早寝早起きは、夜の電力消費を抑えることになり、節電につながります。

昔から「早起きは三文の徳」といいます。時間に余裕ができることで、生活にゆとりが生まれます。さらに、美容や健康にもいいですよ。

家庭の節電対策メニュー

ご家庭で取り組む対策をチェックし、「わが家の節電対策」を作りましょう。

節電対策メニュー	節電効果		チェック
	削減率	削減消費電力	
エアコン			
① 室温28℃を心掛けましょう。	10%	130w	<input type="checkbox"/>
		※設定温度を2℃上げた場合	
② “すだれ”や“よしず”などで窓からの日差しを和らげましょう (エアコンの節電になります)。	10%	120w	<input type="checkbox"/>
③ 無理のない範囲でエアコンを消して、扇風機を使いましょう。 ※除湿運転やエアコンの頻繁なオン・オフは、電力消費の増加になるので注意しましょう。	50%	600w	<input type="checkbox"/>
冷蔵庫			
④ 冷蔵庫の設定を「強」から「中」に変え、扉を開ける時間をできるだけ減らし、食品を詰め込まないようにしましょう。	2%	25w	<input type="checkbox"/>
照明			
⑤ 日中は照明を消して、夜間も照明をできるだけ減らしましょう。	5%	60w	<input type="checkbox"/>
テレビ			
⑥ 省エネモードに設定するとともに画面の輝度を下げ、必要なとき以外は消しましょう。	2%	25w	<input type="checkbox"/>
		※標準→省エネモードに設定し、使用時間を2/3に減らした場合	
温水洗浄便座(暖房便座)			
⑦ 便座保温・温水のオフ機能、タイマー節電機能があれば利用しましょう。	1%未満	5w	<input type="checkbox"/>
⑧ 上記の機能がなければ、コンセントからプラグを抜いておきましょう。			<input type="checkbox"/>
} いずれかの対策により			
ジャー炊飯器			
⑨ 早朝にタイマー機能で1日分まとめて炊いて、冷蔵庫に保存しましょう。	2%	25w	<input type="checkbox"/>
待機時消費電力			
⑩ リモコンの電源ではなく、本体の主電源を切りましょう。長時間使わない機器はコンセントからプラグを抜いておきましょう。	2%	25w	<input type="checkbox"/>

外出しているときにも、④⑦⑧⑩の対策に取り組みましょう。

削減率の合計が「15%」を超えるように節電しましょう。

※節電効果の記載値は、在宅家庭の日中の平均的消費電力(午後2時:約1,200W)に対する削減率と削減消費電力の目安です(資源エネルギー庁推計)。また、削減率はすべて小数点以下を切り捨てています。

まだまだあります 節電対策メニュー プラスα

エアコン

フィルターを定期的（2週間に1回程度）に掃除する。

冷蔵庫

庫内にビニールカーテンを取り付ける。

電気ポット

お湯はコンロで沸かし、ポットの電源は切る。

洗濯機

容量の80%程度を目安にまとめ洗いをする。

パソコン

日中、短時間であればノートパソコンの電源を抜いて使う。

掃除機

紙パック式は小まめにパックを交換する。

ライフスタイル

節電のための家事スケジュールを立てて、日中(午前9時～午後8時)の電化製品の使用をできるだけ避ける。また、外出することで、家庭の電力消費は、在宅時を大きく下回ります。旅行や外出は、有効な節電方法の一つです。

節水

食器のまとめ洗いやシャワー時間の短縮など、節水を心掛ける。節水によって、水を送るポンプや上下水道施設の消費電力を減らすことができます。

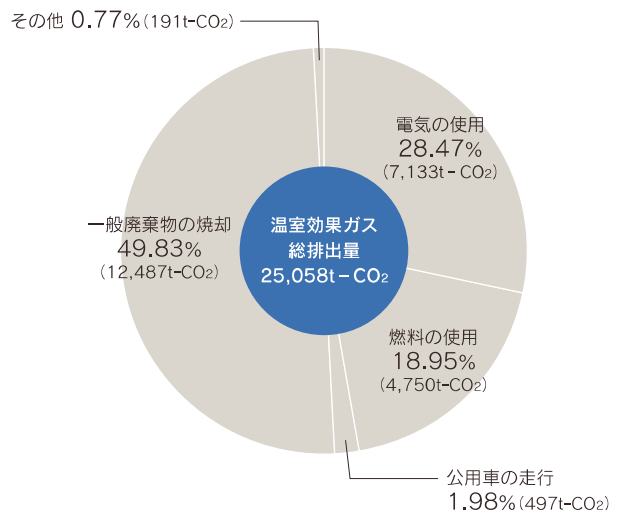
土岐市の事務・事業に伴う 温室効果ガス排出量の公表

市では、平成14年に「土岐市地球温暖化対策実行計画」を策定し、温室効果ガスの削減に取り組んでいます。

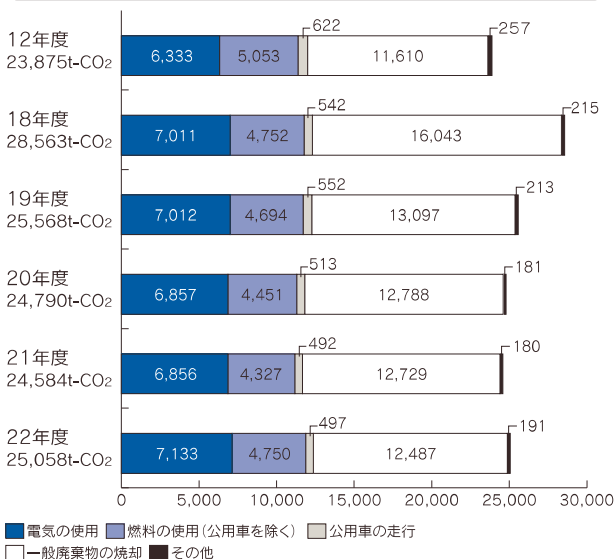
平成22年度の温室効果ガス総排出量は、25,058t-CO₂（二酸化炭素換算値）で、22年度目標数値であった21,325t-CO₂に対して17.5%の増加となり、目標を達成することができませんでした。なお、対前年度では、1.9%の微増となりました。

今年度は特に節電を心掛け、目標達成に向けて取り組んでいきます。

平成22年度 温室効果ガス総排出量



活動別年間排出量の変化



施設別年間排出量の変化

